

---

(日語原文)

偶目した筆談資料

町 泉寿郎

筆談という言葉コミュニケーションは漢字文化圏において広く見られるものではあるが、江戸期の朝鮮通信使や明治期の清国公使館員との交流など、筆談資料が残される機会は比較的限られている。朝鮮通信使や清国公使館員について専門的に研究したことの無い報告者が知りえた筆談は極めて限定的であるが、江戸～明治期の漢方医・漢学者等（北尾春倫・今大路元淵・岡田昌春・森枳園・芳野金陵・三島中洲・川田甕江・阪谷朗廬、養鷗徹定等）の資料調査過程で偶然に出会った筆談・唱和者自身の筆跡による資料を中心に紹介する。